

次の企業と FIVE STAR MAGAZINE は士業界を応援しています。

Powered By
ご協賛企業



ストライク

NOTHING IS
impossible

特集

従来型の士業のビジネスモデルが変わる、

「その時」に

向けて、

やってく *Re*

オオノオ!!

連載

“I can't believe
ChatGPT
can do this!”

こんなことまで できるなんて!

取材／セブンセンス税理士法人（東京都港区）
ディレクター 公認会計士・税理士 大野修平氏

第4回 取材日

2025.04.03

このまま ChatGPT が進化すれば、士業を始めとするホワイトカラーの仕事は奪われていく——!? そのことに危惧を感じた我々は、“税理士業界における ChatGPT の第一人者”大野修平氏とともに、ChatGPT の進化の動向をウォッチしていくことにした。ChatGPT の進化は止まらない。それどころか早まるばかりだ——

オオノオ!! なんてこった!!

(文・武田司、GPT o1 pro)

「ビリー・ミリガン」化する、 ChatGPT

—前回の取材から2か月経ちました。この間は生成 AI 関連で大きな動きは少なかったように思いますが、どうでしたか？

大野: いや、なかったように見せかけて、あったんじゃないですか。前回のときは、ChatGPT4.5 はリリースされていたか？—していませんね。

大野: それなら、4.5 がリリースされたのが大きなトピックになりますね【次ページ写真左】。

—4.5では、どのような変化がありましたか？

大野：ざっくり言うと、4.5は「空気読める系」のモデルになっています。EQ (Emotional Intelligence Quotient、感情を理解し効果的に管理する能力) が高くなったと言われてい

ます。

—相手に寄り添える能力が高まったということですね。
大野：私もファーストインプレッションでは気付きませんでした。AIっぽさが減少したように感じます。

—大野先生が言うところのAIっぽさって、何ですか？

大野：わかりやすい例で言えば、「私の父が亡くなった」と話したとき、もっとも賢いと言われているo1なら「つらいときは、信頼できる友人や家族に話を聴いてもらったり、専門家に相談することも一つの選択肢です」などと話します【写真右上】。これはAIによくある傾向なのですが、安直に解決に向かおうとするんですよ。

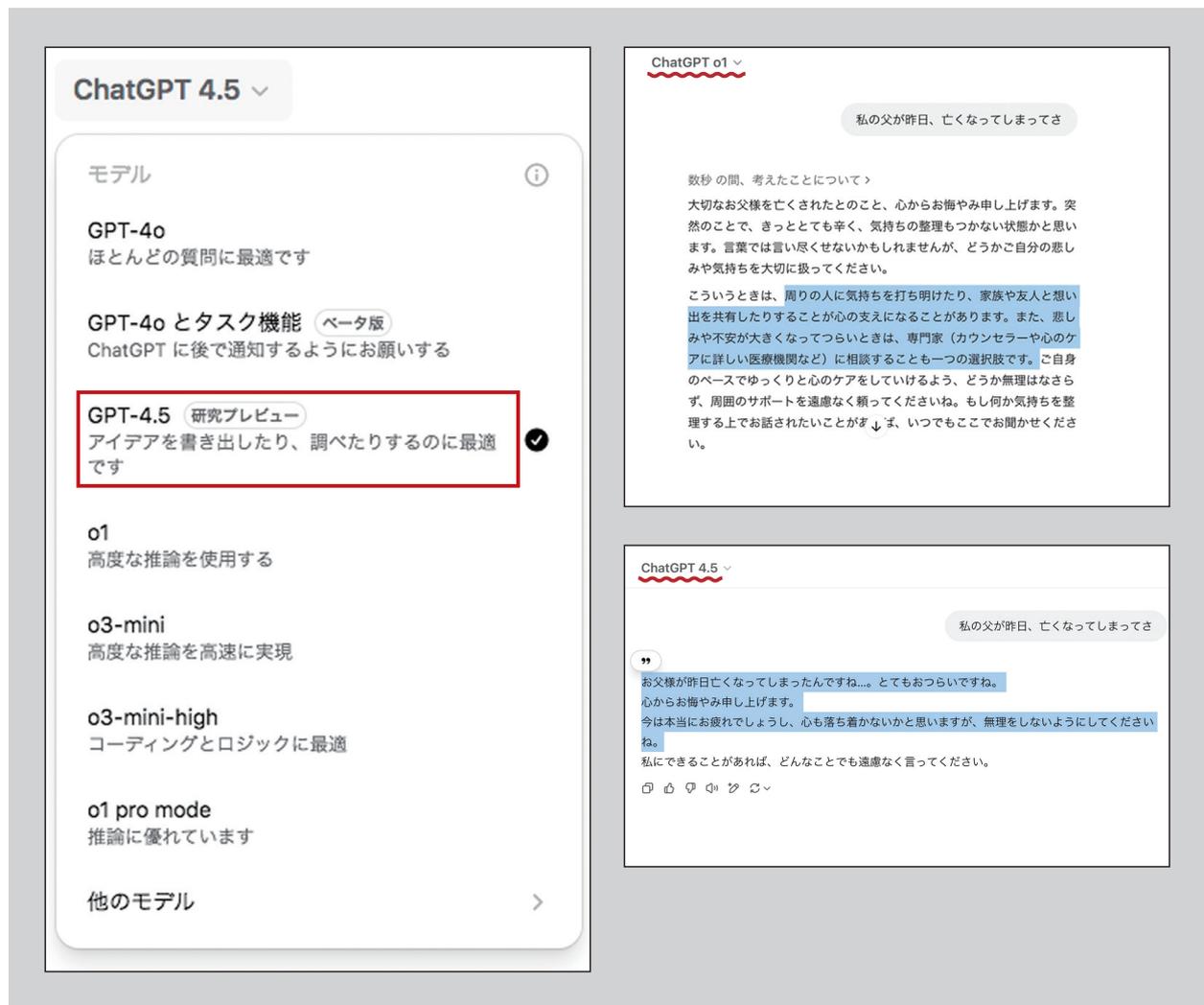
4.5はそうではなく、「とてもおつらいですね。無理をしないようにしてくださいね」とだけ言うのです【写真右下】。おそらく、人間もこれに近い反応をするでしょう。相手がつらそうなら「つらかったね」とか、「よかったら話を聞こうか？」などと声を掛けると思います。o1のように「カウンセリングや心療内科に行くといいよ」などと言う友人や親族がいたら、縁を切りたくなりませよ（苦笑）。

—病人扱いしてんじゃねーよって（笑）。

大野：このあたりが4.5で賢くなったと感じる部分です。それで、4.5にo1の回答を添削させてみたんですよ。

—それは面白いですね。

大野：すると「共感が浅いし一般論が多い」「アドバイスが急ぎすぎていて相手の状況を考慮していない」「文章が長すぎて寄り添っている感が薄い」「相手の状況や感情に合わせて



返答していない」などとバツサリでした(笑)。
—ChatGPT が人格分裂して、ビリー・ミリガン（編集部注：アメリカの犯罪者。24の人格を持つ多重人格者）のようになっていますね。

大野：そうですね。ChatGPTも今や多くのモデルがあって、表に出ているだけでも7つのモデルに分かれています【写真上】。

上の3つが「事前学習モデル」と言ってあらかじめ学習していることから回答するもので、下の4つは「推論モデル」と呼ばれ、ステップバイステップで考えて結論を出していきます。「風が吹けば桶屋が儲かる」みたいな因果関係やロジックを積み上げて考えを組み立てていくため、回答が遅いんですよ。一方の、事前学習モデルは瞬発力は高いけれど、ロジックには少し弱さを感じます。

—「帯に短し、襷に長し」という感じですかね。

大野：でも、今は4oがアップデートされて、だいぶ洗練されてきていますので、4oも悪くないねという感じになっています。

そして、さらにその4oの株を爆上げしたのが、画像生成機能です。

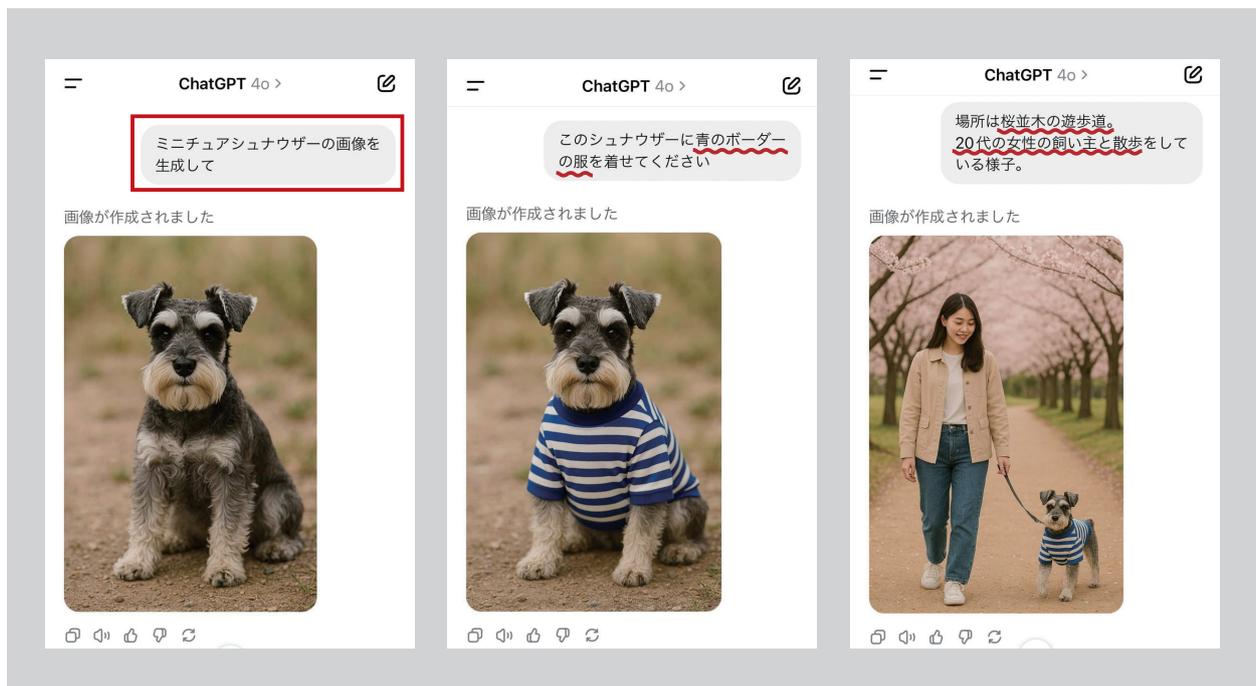
—ああ、大野先生のFacebookで見ました【写真下】。

大野：これで、大半のイラストレーターの仕事がなくなっていくと思います。この画像生成機能は現在、4oで使えます。詳しくはわかりませんが、おそらくオープンAI社の中で開発チームが分かれているのでしょう。



残された仕事は・・・コピペ？

—モデルが多くなって、ChatGPTを使うときにいつもモデルの選択に頭を悩ましています。せっかくなら pro mode を使おうと思って、長い推論を待つのですが、これが正しい使い方なんですかね？



大野：だから皆、「これって仕事と言えるのかな」と不安になっているんじゃないですかね。

ChatGPT に指示を出してたばこを吸いに行き、戻って修正指示を出してまたたばこを吸いに行く。将来的には、そういう仕事の仕方になっていくのでしょうか。

—しかし、使っていて思うのは、問いかけるのも、AI が出した選択肢を判断するのもこちらですよね。主導権は人間側にあるような気はしています。

大野：正しく言えば、「まだ」あるということではないでしょうか。一年前は人間側に主導権がありましたが、半年前にはほぼ AI に決めてもらうようになって、今は完成したもののチェックくらいは人間がしないといけないという段階になっています。

これが一年後になると、「人間がチェックするとクオリティが下がるからチェックするな」という状況になっているかもしれません。—特にこの EQ が高まれば、より人間に寄り添った判断ができたり、成果物を作れたりするようになるでしょうからね。

大野：そうですね。そして、AI がそれを状況に応じて使い分けられるようになっていくでしょう。この人は真面目な文章を書きたいのだな、となれば推論モデルが動いてロジックを積み上げるし、日常的なやりとりなら感情モデルが立ち上がって寄り添い型の回答になってくる。

もはやプロンプトエンジニアリング (AI

から望ましい出力を得る技術) とか誰も言わなくなっているように、ChatGPT を使うのもハードルが下がってきているので、これまで生成 AI を使いこなしていた人たちにあった優位性みたいなものもなくなってきています。

—だから今は、それをパッケージにしてサービスにできるかどうかの差になっている気がしています。

—それで思い出しましたが、先日、セブンセンスグループさんからアプリがリリースされていましたね？

大野：私たちが開発した『AIDD』は生成 AI を使って財務デューデリジェンスを行うものなのですが【写真】、システム化して特許も取得しました。私たちは以前から生成 AI を使って財務 DD を行ってきましたが、一年前は一部しかできなかったのが、半年前からおおよそできるようになってきて、今ではできないことがないほどになっています。

財務 DD は対象企業からの回答や資料を分析して、どこにどのようなリスクがあるかを見つける仕事で、会計士が得意な分野ですが、一般の方には難しい。しかし生成 AI に渡せば、だいたい入社 3 年目くらいの会計士の働きをします。ときには、私でも思いつかない鋭い指摘をすることがあり、ハッとさせられることもありますよ。

—これは大きな事件ですね。土業の仕事の一つを奪われたわけですからね。

大野：専門家に依頼すれば高額な報酬を請求されますが、ChatGPT なら月 3 万円で働いてくれるので、こうやって仕事が奪われていくのでしょうか。

財務 DD ができるなら監査もできるようになるだろうし、税務もできるようになるだろうと思います。

いまだに「税務は生成 AI ではできない」と言う人がいますが、それはこうした生成 AI の急速な進化を体感していない人の意見であり、希望的観測に過ぎません。

—AIDD はどのような仕組みになっていますか？

大野：会社の資料と経営者へのヒアリング回答を AIDD に読み込ませると、財務 DD に特化したプロンプトで処理して、リスクを洗い出していきます。

—では、これからは財務 DD で人間が行うことはヒアリングと資料集めだけだということですね。それに、いずれヒアリングなども AI がしてくれるようになりますよね？

セブンセンスグループが開発した生成AIを活用した財務DDシステム『AIDD®』のサイトより
<https://seventh-sense.co.jp/service/aidd/>

大野: そうですね。今年の2月には ChatGPT の Pro 版で、ブラウザ操作を自動で行ってくれる新機能「オペレーター」が使えるようになっていました【写真】。まさに AI エージェントのような機能なのですが、今はブラウザだけではなく、いずれローカルのパソコンも操作して、自動で仕事をしてくれるようになります。そうなるともう、人間のやることはなくなってきました。

—オペレーターって目にはしていましたが、そんな恐ろしい機能だったんですね。

大野: 世の中では「生成 AI を使いこなせ」などと言いますが、もはや「使いこなす」などと言うのもおこがましくなっています。彼らに気持ちよく働いてもらうために、人間ができることは何かを考えないといけなくなっているような気がします。こうなると最終的に、人間がやることはコピペだけになっていくのかもしれませんが。

—もう敵わないところに行ってしまった感がありますね。

大野: AI の進化に抗って生きていくのは無理なので、私はすでに白旗を上げています。降参して、進んで AI の手下として働いていこうと思っています。

いまだに抗おうとしている人はすごいですよ。私は、戦う前から尻尾を振っていますからね（苦笑）。

私は AI の手下なので、一年ほど前から「こ



ChatGPT の Pro 版で、ブラウザ操作を自動で行ってくれる新機能「オペレーター」

れからは AI が働きやすい職場づくりをしていきましょう」と推奨してきましたが、それがすでに現実化してきています。

人間も働きやすくなるべきですが、これからは AI 中心に考えたほうがむしろ、オペレーションがスムーズになっていくのかもしれませんが。■

セブンセンス税理士法人

(東京都港区)

公認会計士・税理士、ディレクター

大野修平

大学卒業後、有限責任監査法人トーマツへ入所。金融インダストリーグループにて、主に銀行、証券、保険会社の監査に従事。トーマツ退所後は、資金調達支援、資本政策策定支援、補助金申請支援などで多数の支援経験を持つ。また、スタートアップ企業の育成・支援にも力を入れており、各種アクセラレーションプログラムでのメンタリングや講義、ピッチイベントでの審査員や協賛などにも精力的に関わっている

